

子どもの立場から 行動を考える

① 幼児編

先生の困りごと…

5歳のAくん。集団活動の時間になり、ルールの説明を聞いて活動を始めても、しばらくすると違う遊びを始めたり、注意してもまた同じことをするので、対応に困っています。

「今はこの遊びをする時間だよ」とか「先生はこの行動はしてほしくないな」などと声をかけるのですが、なかなかうまくいきません。



つまんない。

人が多くてざわざわしているのが、イヤ。

やりたいけど、できない。
やーめた。

先生の言っていること
よくわからないよ。

待てられないや。



子どもたちの行動にはその子なりの理由が必ずあります。同じ行動をしていても、その理由は一人一人異なります。対応の仕方、その時々の子の気持ちや行動の理由を考えながら対応していくことが必要です。すぐには理由がわからないこともあるかもしれませんが、子どもたちのことをわかって、理解しようとしている気持ちが子どもたちに伝わります。

関わり方のヒント

Aくんの行動の背景にある事情に 目を向けてみましょう

Aくんは、集団活動に参加するつもりでそこにいるのかもしれませんが、もしかしたら説明を聞いてもよくわからなかったり、活動をやってみたものの何かうまくいかないと感じてしまうことがあり、嫌になってしまったのかもしれません。また、たくさん人がいるようなざわざわした状況が苦手なのかもしれません。

Aくんに注意しても、Aくんの目線に立ってみると、Aくんなりの理由があり、いけないことをしているという意識がなかなか持てないのかもしれません。

Aくんの事情への具体的な対応を 考えていきます

Aくんに、どのように伝えたとわかってもらえるのでしょうか。実際にやって見せてみる、ルールを目につくところに書いておく、端的な言葉で伝えるなど、活動の内容やルール説明などの伝え方を工夫してみましょう。まずは、大人の手助けを受けながら、自分なりに“わかった”“できた”という経験を積むことが大切です。

また、してほしくない行動については、今何をすればいいのかわかるように、「こうするといいよ」という具体的な行動を伝えてみましょう。そして、ざわざわした状況が苦手なら、Aくんの苦手な刺激を減らせるように可能な範囲で環境を整理してみましょう。

「げんき」からのメッセージ

子どもの困った行動には、年齢相応の行動もあれば、上手な対応で「困った」行動にならずにすんでいくこともたくさんあります。子どもへの関わりがストレスや不安になっているとき、頑張ってもなかなかうまくいかないときには、一人で抱えてしまわず、専門の機関を利用するのも一つの手です。「げんき」でもご相談できますので、ご利用ください。

「げんき」相談専用電話 03-5727-2236